

1. 協働型学校評価重点目標について

「自分の長所が分かり、それを生かして学校生活を送ることができる児童を70パーセント以上にする。」

<学校の取組>

- ・学習や行事のねらいを指導する際、自分のめあてを考えるようにさせる。
- ・学年の初め、中、終盤で、自分の活動について「目標」「成果」「課題」を考える時間を設定する。
- ・自分の長所を生かして学校生活を送ることを意識させる。

<保護者の取組>

- ・自分の子供の良いところを意識して褒める。
- ・できないことを責めず、次にどうしたら良いかを話し合い、励ます。
- ・学校・家庭以外の環境に子供を積極的に連れて行き、そこでの活動を見守り、励ます。

<地域の取組>

- ・子供会や地域行事に子供を参加させ、その活動を認め励ます。
- ・地域で積極的に挨拶の声掛けをする。
- ・学校の教育活動に積極的に参加し、児童と関わりながら、児童の活躍を見守り励ます。

※Aが3点, Bが2点, Cが1点, Dが0点として平均を算出しています。
全員がAだと3.0になります。

		保護者平均	職員平均	児童平均
(1) 学校の取組について	行事や学習では、めあてを持って取り組ませている。	2.8	2.6	
	学校は、行事等が終わった際に、よかった所・次に頑張りたいことなどを振り返って考えるよう指導している。	2.7	2.6	
	学校は子供たちのよさをほめたり認めたりしている。	2.9	2.6	
	自分の長所(よさ)が分かり、それを生かして学校生活を送れるように、学校は子供たちの活躍場面を設けている。	2.6	2.5	
(2) 子供の様子について	行事や学習では、めあてを持って取り組んでいる。	2.4	2.6	2.5
	行事等が終わった際に、よかった所・次に頑張りたいことなどを振り返って考えている。	2.3	2.6	2.5
	自分には、よいところがあると思っている。	2.2	2.0	2.6
	自分の長所(よさ)が分かり、それを生かして学校生活を送っている。	2.1	2.3	2.4
(3) 保護者の取組について	子供がめあてに向かって取り組む姿を応援している。	2.5	2.8	
	できないことを責めず、次にどうしたらよいかを話し合い、励ましている。	2.3	2.6	
	子供のよさをほめたり認めたりしている。	2.5	2.5	
	子供が自分の長所(よさ)に気付ける機会を増やすために、学校・家庭以外の環境に子供を積極的に連れて行き、そこでの活動を見守り、励ましている。	2.3	2.4	

【自由記述】

【保護者：自分の長所が分かり、それを生かして学校生活が送れるために実践していることや今後取り組みたいことなど。】
 ○自らやりたいことや行きたいところには連れて行ったり、体験させてあげたりするように努力しています。
 ○今後取り組みたいことは、最近うそをつくことが増えたので、それを直していけるようにしていきたいです。
 ○ピアノの練習。
 ○自ら進んで手伝い、宿題をした時などはほめるようにしている。(3)保護者の取組最後の項目は、最近ほとんどできていないので、今後少しずつ取り組んでみたいと思います。
 ○自由な発想を尊重している。
 ○家では、自分の意思で動くことを意識しています。コロナ禍になり、以前よりも出掛けて違う環境で過ごす経験が減ったため、サッカーを習うなど学校とはまた違う集団で過ごす時間を取れるようにしています。

○特にこれといって実践していることはありません。時に急に思い立って物作り・工作など一人で集中してやることがあります。外で習い事のように絵や工作など家ではできないような物を作ったりするのがいいのではと思い、やらせようと体験させましたが、多くの知らない子供たちの中に入って行くのを怖がりやめました。家で好きなように一人で作ったりするのがいいようです。想像力がもっと豊かになるように、対応できるところは対応していこうと思います。

○長所を見付けたり、自分から頑張ろうとしたときは、心から喜んで応援している。短所を見付けたときは、つい言いたくなってしまい少し言ってしまうので、そこをグッと我慢して見守っていききたいと思う。

○たくさんほめる。

○子供がしたこと（お手伝いだけでなく、小さなことでも）に、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。

○特に意識して実践していることはありませんが、コロナの感染状況を見ながら、いろいろなイベント等に参加したいと思っています。

○興味のあることやスポーツ、遊びなどを一緒に行い、また、調べたりする中で、できたという体験をしてもらいたいと思い実践している。その中で、本人のよさや頑張りを家族皆で認め励まし、学校生活でも活かしていけるように応援している。

○高学年となり、下級生の面倒をよく見るよう家庭で話したら、よく面倒を見て慕われている様子に、家でも喜んでいます。今後は、大勢の中でも弱気にならず、しっかりと自己を持って、学習・生活をしていけるよう話していきたいと思っています。

○子供の中で何か問題に当たったとき、自分の行動の問題点を指摘しつつ、良いところも伝え、解決策と一緒に考えている。

【職員】

○帰りの会での毎日の振り返りの中で、自分や友達の良いところや頑張ったことなどを伝え合っている。

○「ふわふわことば」を使うことの励行。

○道徳や学活の時間を使って、定期的に自分のよさや3人での過ごし方について話し合っています。

○児童同士で互いの良さを発見・評価できるように帰りの会で「ふわふわことば（行動）」を発表させている。（人の良さを見付けた人、見付けてもらった人はビー玉を瓶に入れ、学級でためていく。たまったら、何かイベントをする予定。）

○児童たち自身の考えたルールを設定し、掲示している。⇒良い活動を見付ける観点になる。

○帰りの会で友達同士で「良かったこと」を伝え合う時間を設けている。

○行事のあと、子供たちの頑張りや感想を学年だよりで保護者の方にも伝えるように努めている。

○今後、友達と自分との違いや長所をお互いに認め合える学級の雰囲気作りに力を入れたい。

○行事や話し合い活動で一人一役役割を持たせ、活動に取り組みさせている。

○自己肯定感や自己有用感を高めるため、帰りの会で「いいところみつけ」をして、他人や自分のいいところを見付ける活動をしている。

○「自分は・・・」と謙虚な姿勢の児童が多いため、簡単な小テストや分かりやすい発問をし、自信を持たせていきたい。

○6年生が互いに良さを賞賛する場や下学年の良さを発見する場を設定する。

○できたこと、頑張りの様子を連絡帳などで知らせ、保護者と共有している。

【考察】

全体的に保護者の皆様から高い評価をいただいております。学校がやるべきことをやっているとお理解していただけているものとうれしく思っております。中でも、「学校は子供たちのよさをほめたり認めたりしている。」の項目では、特に数値が高くなっております。今後も、児童が自信をもって学校生活を送ることができるように、児童の良さをどんどんほめたり認めたりしていきたいと思っております。学校で、帰りの会等を利用して、「ふわふわことば」を意識させる取組を行ったり、友達のよさを伝え合う場面を設定したりしていることが、自分や友達のよさに気付くきっかけとなっていると考えられます。また、本校では、児童のよさや頑張りを保護者の皆様に機会あるごとにお伝えし共有していることが、児童によい影響をもたらしていると考えられますので、今後も継続してまいります。

「自分には、よいところがあると思っている。」「自分のよさが分かり、それを生かして学校生活を送っている。」の2つの項目では、保護者の皆様と職員の評価よりも、児童自身の評価が高いことがうかがえます。児童のよさやよさを生かした頑張り、保護者の皆様には見えづらかったり、学校でももっと多面的に見取ったりする必要があったのかもしれませんが、次年度は、児童自身が頑張っている様子が保護者の皆様にうまく御理解いただけるように手立てを工夫したり、また学校でもきちんと見取っていけるように努力したりしてまいります。

保護者の皆様におかれましては、各家庭独自の取組で、お子さんをほめたり、応援したり、「ありがとう」の気持ちを伝えたりいただいていることが、自由記述からも分かりました。このような日々の取組は、児童が自分のよさに気付く一因となっていると考えられます。これからも、各家庭での継続した取組をお願いいたします。

「子供が自分の長所(よさ)に気付ける機会を増やすために、学校・家庭以外の環境に子供を積極的に連れて行き、そこでの活動を見守り、励ましている。」の項目は、コロナ禍ではなかなか取り組みづらかったかもしれません。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてくると、この数値も上がってくると思われまます。

2. 学校運営について

(1)教育方針・教育活動全般について

評価の観点	保護者平均
①学校は、教育方針、教育活動内容を分かりやすく伝えている。 (学校要覧、PTA全体会、学校・学年だより、学級懇談会、ホームページ、ブログなど)	2.7
②学校は、野村ならではの特色ある教育活動を行っている。 (米作り、全校遠足、異学年交流、美化活動、若草太鼓の活動など)	2.7
③学校の教育活動は、少人数の良さを生かしたものである。	2.7
④学校行事は、子供が十分に活躍できるものである。 (卒業式、入学式、運動会、野外活動、修学旅行、野村っ子まつりなど)	2.6
⑤学校は、保護者と連携・協力しながら教育を進めている。 (家庭訪問、授業参観、自由参観、個人面談、日常の連絡など)	2.5
⑥学校は、地域と連携・協働していく努力をしている。 (各教科、総合的な学習の時間での地域学習やコミュニティゲストの活用など)	2.4
⑦学校は緊急事態(災害・事故等)が発生した場合の対応が適切である。 (一斉配信メール、引き渡し訓練など)	2.9
⑧児童の一斉下校時刻の設定や、時に応じた下校指導は適切である。	2.8
⑨学校は、保護者の願いに応えた教育活動を行っている。 (アンケート調査、意見の集約など)	2.5
⑩学校のいじめ防止基本方針を知っている。	2.5
⑪学校のいじめに関する相談窓口は、教頭、養護教諭、いじめ担当教諭(服部)、スクールカウンセラーであると知っている。	2.5
⑫学校の相談窓口は、相談しやすい。	2.5
⑬学校では、いじめの未然防止に向けた取組を適切に行っている。	2.7
⑭学校では、いじめが起きた場合、適切に対応している。	2.7

【自由記述】

○いじめがあった際は、まずは担当の先生に相談すると思うので、相談窓口には相談しにくいと思う。

○去年は、コロナで行事があまりできませんでした。今年は対策をしながらも運動会や学習発表会などたくさんの行事を行うことができ、子供たちにとってもよかったですし、のびのびと活動する姿を見ることができて、親としてもうれしい1年でした。

○コロナ禍で大変な中、感染対策を十分に取りながら学校行事を行っていただいているので、感謝しています。

○今年度からの学校だよりは、とても見やすく、子供たちのことに限らず保護者や地域の方からの意見なども載せてくださり、情報量がとにかく多くて、見応えがあります。役員会で話した内容も載っているのも、情報共有もでき、とてもよいと思います。

○コロナ禍で活動に制限がある中で、より多くの活動ができるよう工夫していただき、感謝しております。

【考察】

「学校では、いじめが起きた場合、適切に対応している。」については、昨年度と比較して若干ですが上がっており、学校で取り組んでいることが、評価いただけていることがうかがえます。今後も、いじめの未然防止に向けた取組を継続していくとともに、いじめが起きた際には、適切に対応していきたいと

考えております。

今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、感染症対策を行い、可能な限り学校行事や校外学習等を実施してまいりました。学校行事で児童の成長した姿を見ることができたことは、保護者の皆様の安心感につながったことと思います。次年度も、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、行事等の実施を検討してまいります。

(2) 子供への指導について

①学校は、子供のことをよく理解して指導に当たっている。	2.7
②学校は子供の学校生活全般において、適切に指導している。	2.6
③学校は、子供の学習について、適切に指導している。 (わかる授業の工夫、家庭学習の工夫など)	2.6
④学校は、読み・書き・計算などの基礎学力を身に付けるために、きめ細かい指導をしている。 (授業、スキルタイム、家庭学習など)	2.6
⑤学校は、子供の相談に適切に応じている。 (個人面談、日常の会話など)	2.6
⑥学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている。 (学級だより、連絡帳、電話連絡など)	2.7

【自由記述】

○これからも、学校でのできごとを連絡帳、電話（問題が起きた際）等で教えてください。本人は基本的に悪いことは報告してくれないので・・・。

○算数の問題で、やり方が分からないということがたまにあるので、学校でどういうふうに教えているのか、家ではどのように教えたらよいのかということをおアドバイスいただくと助かります。

○学校では、チャイムは鳴らないのでしょうか？業間休みで夢中で遊んでいたら時間が過ぎていて、他学年の先生に怒られた（注意されたのだと思いますが・・・）と家で話していたので、「チャイムが鳴ったら急いで教室に戻ったら？」と言ったところ、「チャイムは鳴らない。」と言われました。高学年ならまだしも、低学年に時計を見ての行動は、どうなのでしょう？他校もチャイムは鳴らないのでしょうか？

○もっと学校を開かれた場所としてほしい。

○やかまし村としっかり連携してほしい。

○子供に寄り添って対応していただいているので、とても感謝しています。

○指導して下さるのは大変ありがたいのですが、その際、生徒のことを「おまえ」と呼んでいるのを何度かお見掛けしたことがあります。なんとも言えない嫌な気持ちになりました。

○他校と比べ、宿題が少ない気がする。（低学年・中学年）

【考察】

全体的に、高い評価をいただいております。「学校は、読み・書き・計算などの基礎学力を身に付けるために、きめ細かい指導をしている。」では、昨年度と比較してわずかですが、数値が上がっております。この項目は、昨年度の評価が低かったため、今年度は、スキルタイムの充実や一人一人の学習課題にあった個別の指導に力を入れて取り組んで来た成果と捉えることができます。今後も、小規模校の特性を生かしながら、一人一人を大切にした指導に取り組んでまいります。

(3) 子供の姿について

		児童平均
①お子さんは、学校に行くことを楽しみにしている。	2.7	2.5
②お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。	2.6	2.6
③お子さんは、学校行事や集会に喜んで参加している。	2.9	2.7
④お子さんは、友達と仲良くし、思いやりがある。	2.5	2.8
⑤お子さんは、進んで運動したり、戸外で遊んだりしている。	2.4	2.5

【自由記述】

○思いやりはあると思うのですが、お友達とけんかをしてしまったり、ちょっと嫌な思いをす
るとうまく言葉にできないのか、もやもやが心の中に溜まってしまうようです。うまく先生方
にお友達との間を取り持してほしいです。
○先生方の御指導とお友達が優しく接してくれているので、毎日楽しく学校に通えています。
○近くの友達が少ないため、友達というより兄弟で遊んでいる。
○とにかく学校が好きです。学校の環境が良いからだと思います。

【考察】

「お子さんは、学校行事や集会に喜んで参加している。」「お子さんは、友達と仲良くし、思いやりがあ
る。」の項目では、児童の評価が高くなっております。児童は、学校行事に楽しく取り組んでいる様子
がうかがえますので、今後も内容等を検討し、学校生活の中で児童の楽しみが増えるようにしてい
きたいと考えております。また、本校では、少人数の良さを生かし、学年の枠を超えて仲良く過
ごす姿が見られます。その日常の姿がそのまま高い評価として表れてきている様子
がうかがえます。今後も、たてわりでの活動を継続させながら、思いやりのある児童を育成
していきたいと思っております。

(4) その他

○下校時、車で迎えに行くと先生方が車がいなくなるまで外にいてくれますが、親も緊張する
ので、中に入れていただきたいです。外にいるのであれば、交通量が多くなかなか右左折でき
ない時があるので、誘導していただくと助かります。
○「自分の良いところはどこだと思う?」と聞いても、答えられませんでした。
○毎日、先生とお友達の話を大笑いしながら家で話してくれます。高学年なのに、あと3年
は野村小にいたいと言っています。そんな小学校生活を送れている息子は幸せだと思います。御
指導いただき、ありがとうございます。

【学校関係者評価委員の方々からの御意見】

1 自己評価（児童・保護者・職員）について

・点数を見た限り、概ね平均AかBになっている。本人が前向きな評価をすることが大切で
すね。(1)の3と(2)の3、なかなか自分では自分の良いところがないと思います。
友達や先生に良いところを言ってもらえるのは、とてもうれしいと思います。
・学校・保護者・児童間の評点が乖離(かいり)している項目が何項目か見受けられるので、原
因について検討する必要があると思います。
・目標に対しての三者の感想が分かりよいと思う。
・児童のアンケート結果が現実的で、理解することができてよかった。

2 野村小学校の課題について

・野村小の良いところは、数えきれず、ただ逆に少人数であることの不安もあります。昨今、
コロナ禍により、人との関わり(行事・イベントなど)が制限され、他校との交流も少ない状
況です。来年度もこのような状況下では、野村小児童間で何か今までに経験のない画期的な行
事・イベントを考え行動するとよいのかなと思いました。
・地域の立場の課題として、地域の中で開かれた連携のあり方について具体的な取組が必要だ
と考えました。
・野村の子供たちが仲よく素直に生活している様子が見られました。知らない人にはなかなか
声を掛けにくい部分があるのかなと感じました。コミュニケーション力を今後のためにどのよ
うに身に付けていくのかは課題と思います。
・小規模校としての強みを生かした教育指導を行うと共に、これからの学校生活や社会生活
の中で自分の意見をはっきり言えることが求められてくると思われるので、グループディスカ
ッションなどの時間を多くしてトレーニングしていくことが求められると思います。
・大勢の中での自分(児童)を確立できるように、精神面(メンタル)を強化。
・アンケートにおいて、保護者平均を見ると「(2)子供の様子について」の項目が、低いよ
うに感じた。学校での取組が保護者へ伝わっていないのではないか。

3 協働型学校評価について

(1) 目標にどの程度近付けたか?

・自分の長所が分かることはとてもよいと思います。そのよいことを実践できるのは、この学
校だからこそと思います。理由は、1~6年生まで1つの集団だからです。考え・行動などが
違う社会は、同年代一本ではないため、違った世代・年が対象となるのが普通です。自分の
強みをいろいろな場面で役立てるには、最高の環境と思います。
・アンケートの結果を拝見して、子供の様子についての児童評価平均が高く、肯定感も育っ
ているのではと思いました。

- ・「自分には良いとことがあると思っている。」と思っている児童が9割に近いということは、仙台市の調査結果（7割ぐらい）と比較してもかなり目標を達成したと考えます。
- ・児童のアンケート平均で「2.6」。半分以上の児童が「自分のよさ」を理解している様子。先生方が各児童のよい所を褒めていただいているおかげで、自分に自信を持っている児童が増えているのだと感じます。

（2）学校の取組

- ・私もこのような時代に小学生だったらよかったなと思うくらいとてもよい活動（めあてを立てて振り返りをする）だと思えます。
- ・評価平均を見る限り、とても高い達成のように思いました。素晴らしいことだと思います。
- ・保護者からの評価が高いことから、職員の取組が認められていることだと思います。
- ・5年生の「今年のめあてを一文字で表す」など、年始めにふさわしいと思います。
- ・今年度もコロナ禍の状況ではあったものの、新たなことにチャレンジする機会が少なかったのではないかと。自分の長所を児童が知るためにも、定期的な行事の他にも小規模校でしかできない柔軟な対応により経験の機会を作ることができたのではないかと。

（3）保護者や地域の取組

- ・やっぱりコロナ禍が大きいです。地域活動では、須賀神社の祭り時に和太鼓発表をもらい、コミュニティセンターで行う敬老会もない、盆踊りもない・・・などなど家庭内での活動・行動でしか励ます機会がなかったような気がします。
- ・コロナ禍での取組は難しいことも多いですが、アンケートを拝読し、地域との積極的な関わりについては、やかまし村からも様々な取組を提案させていただきたいと思えます。
- ・保護者の取組に関する職員の評価が高い。学校と家庭が信頼して取り組んでいる様子が感じられます。地域（市民センター）としては、親子で参加できるような講座を計画していきます。
- ・アフターコロナでは、地域に対する授業参観や学校行事に対する参加・見学を多くしてもよいのでは。
- ・子供の宿題を一緒にする際、本人が気分よく取り組めるようにもっと工夫しながら教えたい。

（4）来年度の重点目標について

- ・70%から90%の目標の中で、自分の長所がどこで生かされるかがポイントですね。スモールステップで進み、失敗は多ければ多いほどよし。経験が増えたことに感謝ですね。私たちも目標のお手伝いできればと思っております。目標設定大賛成。
- ・異年齢交流、地域の人との交流や学び。
- ・学校は、将来の日本を担う人材を育成する専門機関であることから、今後も先生方に高い専門性が求められると思われるので、アンケート項目にストレス度を計る項目を入れて保護者にも知らせる必要があるのでは。
- ・児童が、活躍できる場を通じて自信を持って取り組み、積極的な学校生活を送ることが将来のために必要だと感じています。
- ・今年度の目標については、目標の意図は分かるが、評価をする上での客観的・定量的な判断が難しい。目標の70%を超えているのかどうなのか。来年度は、定性的な内容の目標の方がよいのでは。

4 その他のご意見

- ・野村小学校は少人数であることのメリットの中で、プール、体育館、校庭といった設備は、他校に比べて贅沢に使用できるので、イベント・行事を増やせるのならと思いました。例えば、プールなら、たてわり活動でプールリレー（低学年・泳げない子は歩く）や石拾いなど・・・。もう一つ、その日に体育の授業があったら、その時間以外にできないものかと。例えば、夏は午後から雨が降る、天気が悪くなるなども考えられるので、よい時間・よい環境での授業はできないのかと親として感じていました。
- ・子供たちが自分自身の長所に気づき、生かして生活できることは、とても素晴らしいと思います。友達や様々な周囲の人との交流の中で認められたり自信になったりすることが、自身の長所に気づききっかけになると良いと思います。コロナ禍でいろいろ難しいことも多いですが、あえて新しいスタイルの交流を生み出せないかとも思います。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・小規模校としての強みを生かした教育内容であることを強調して、他学校との差別化を図ることにより、児童数を確保できるのでは。
- ・私たちができることを考え、子供たちと共に学校生活を有意義なものにしたいと思っております。